

ぎんれいゆ会 平成三十一年三月

地下道へ浅春の風吹き下ろす

主宰 細野恵久 福祉三期

軍艦島黄水仙の波間より

増田和子 食文一期

仏塔の五層くつきり山火立つ

三枝邦光 美工五期

旅終へし五臓に沁むる浅蜷汁

國永靖子 音文六期

菜園は日矢射すあたり草青む

猿橋二三雄 福祉八期

霞たちほんに等伯松林図

加藤善巳 美工八期

寒立馬四肢ごとごとく太きかな

太田 實 国際十期

食卓にスペインの塩春動く

大下絹子 国際十五期

よもぎ餅食べて芽摘みし話など

中村建生 国際十五期

春兆す添乗員の赤い靴

藤本武子 国際十五期

若者は今こそ勝負道真忌

山下 進 国際十五期

りゆうぐうに玉手箱あり春の夢

許斐國照 食文十五期

紙雛駅舎にそつと飾られて

小淵政子 健福十六期

日刺の墓貫うて遊ぶ雀の子

兼清久子 健福十七期

方言の音にして読むのどけしや

沖本元辺子 国際十七期

淀みつつ又急ぎ行く流し雛

香春早苗 国際十七期

若き者啓蟄の土踏みて翔つ

仲田慎輔 国際十七期

万の梅見上げ思ひの積木増す

宮本公子 健福十七期

空近く囀とおし十六階

中村富美子 国際十七期

底深く集落ありて谷廳

宮本眞貴子 国際十七期

思い出にいつも祖母居る雛あられ

小栗恭子 健福十八期

春光や諸手を挙げる埴輪あり

潮江敏弘 健福十八期

薄氷の淀の鴉殿を離れけり

野見山剛 健福十八期

啓蟄や家売りに出し終活す

大山吉春 国際十八期

黄水仙鬼籍となりし人をふと

今井義和 美工二十期

夕暮れて余寒に沈む白鷺城はくろじょう

尾崎育久 美工二十一期

あんばんをぶらさげて行く梅見かな

黒木早苗 食文二十一期

また一軒空き家となりて寒椿

宮脇暁美 食文二十一期

吾子よりもばば達の競う雛運び

藤川敏子 国際二十二期

渦潮の遊覧船も渦となり

大歳敏子 健福二十二期

雛まつる昔の話ききながら

大田直子 生環二十二期

第二百五十九回ぎんれい句会（三月八日開催）より